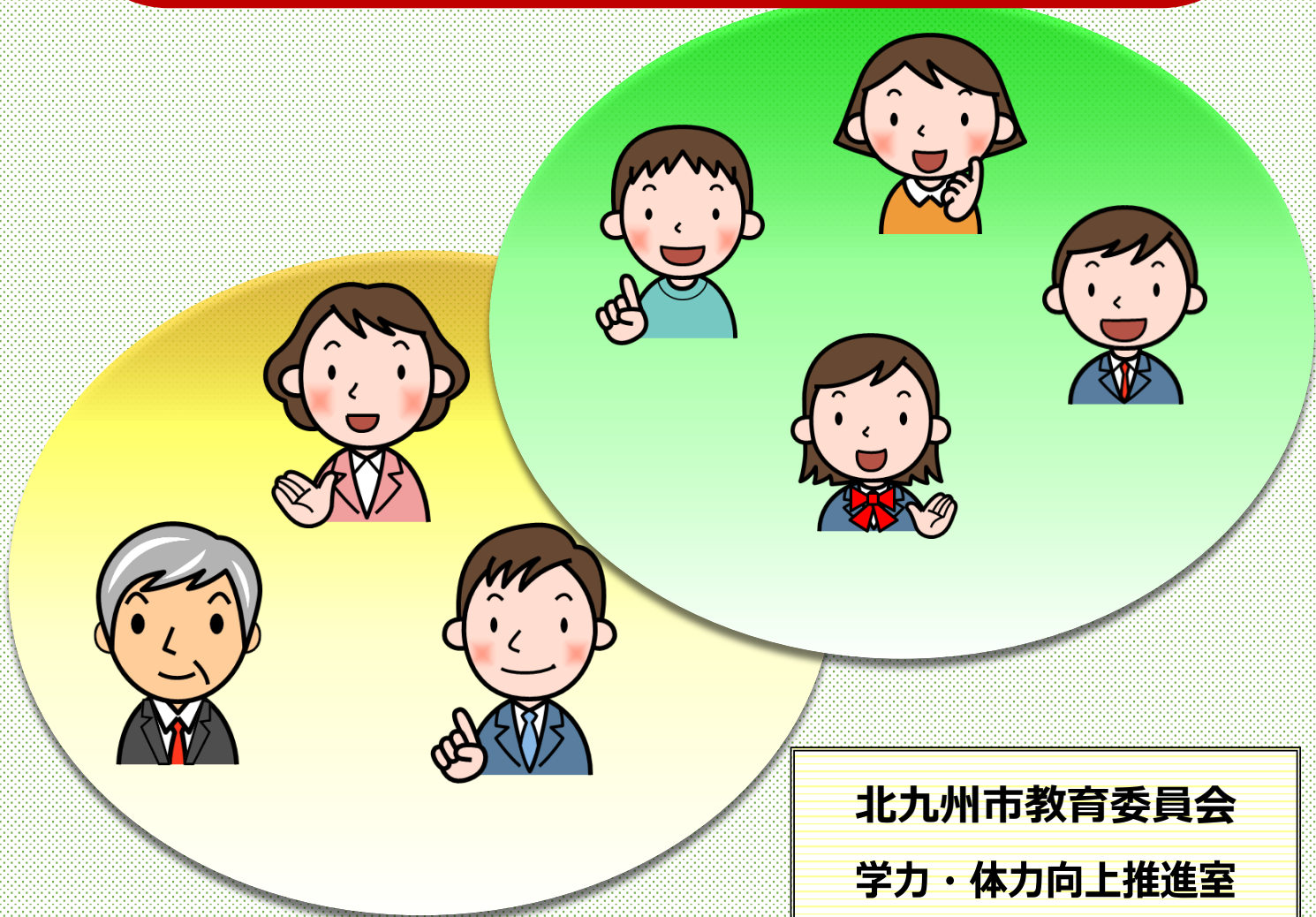


子どもの思考を広げ、深める

「話し合う活動」

Q & A集 【小学校版】



北九州市教育委員会
学力・体力向上推進室

目 次

◇「話し合う活動」構想のポイントシート

・思考を広げ、深めるための授業づくりのステップ	2
-------------------------	---

◇「話し合う活動」に関するQ&A

Q 1. 「話し合う活動」は、なぜ必要なのですか？	3
Q 2. 「思考を広げ、深める」とはどういうことですか？	4
Q 3. 「話し合う活動」でのポイントは何ですか？	5
Q 4. 「話し合う活動」を、どのように計画すればよいですか？	6
Q 5. 「話し合う活動」で子どもの思考を広げ、深めるために、 どんな「内容」を話し合えばよいですか？	7
Q 6. 「話し合う活動」で子どもの思考を広げ、深めるために、 どのような「方法」で行うのが有効ですか？	12
Q 7. 1 単位時間のどこに「話し合う活動」を位置付けたらよいですか？	15
Q 8. 話し合う活動をしているときに、教師がすることは何ですか？	17
Q 9. 「話し合う活動」の基盤づくりに、日々、取り組めることはありますか？	18
コラム	19

◇授業構想シート・話し合う活動構想シート	21
----------------------	----

付けたい力を明確にした授業

思考を広げ、深めるための授業づくりのステップ

ステップ A 付けたい力を明確にして、「まとめ」から「めあて」を考える。

① 教科等・学年の目標(ねらい)を把握する。

学習指導要領解説

② 単元の目標(ねらい)を把握する。

北九州スタンダード
カリキュラム

③ 評価規準を基に、本時のねらいを確認する。

④ 本時の「まとめ」を考える。

子どもの言葉で

⑤ 本時の「めあて」を考える。

ステップ B 付けたい力を明確にして、「発問」「板書」を考える。

ステップ C 付けたい力を明確にして、「何を」「どのように」話し合うかを考える。

① 本時のねらい（評価規準）を確認し、「何」を話し合うか考える。

② 人数や形態、思考ツール等「どのように」話し合うか考える。

③ 1 単位時間のどこに「話し合う活動」を位置付けるかを考える。

④ 話し合う前の状態からゴールまでをイメージし、考えの根拠や
つまづきを想定し、手立て（教師の出番）を考える。

「めあて」⇔「発問・板書・話し合う活動」⇔「まとめ」を
整合させることが大切です。



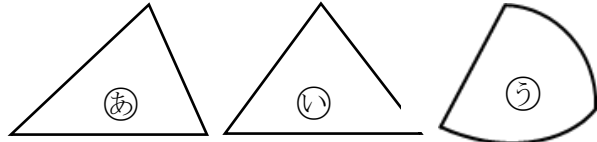
Q 1. 「話し合う活動」は、なぜ必要なのですか？

A 1. 自己と対話したり、他者とかかわり合ったりしながら、自分や集団の思考を広げ、深めることができます。



【小2 算数科「三角形と四角形」】

三角形を見つけましょう。



◆ こんなこと、ありませんか…

三角形はどれですか。
 3本の直線で囲まれているから◎だと思います。どうですか。
 すばらしい。正解です。
 ◎は、なぜ三角形でないのかな。…でも、質問しにくいなあ。黙っておこう。
 結局、一部の子どもが意見を言うだけで授業が終わってしまったな。

話し合う活動では、一部の子どもだけでなく、全ての子どもに「思考・判断・表現」する機会を設定することができます。その中で「ああ、なるほど。」「へえ、そうなんだ。」など他者の意見に自分の考えをゆさぶられたり、新たな考えを生み出したりする喜びを実感できるようにすることが大切です。



◇ 例えば、このようにしてみると…

三角形はどれですか。
 3本の直線で囲まれているから◎だと思います。どうですか。
 もう他に三角形はないですか。
 ◎は、三角形と思います。
 ◎は、三角形でないと思います。
 どうしてそう思ったかわけを話し合しましょう。
 ◎は、3本の線があるから三角形と思います。
 線は、曲がっていてよいの？
 三角形は、「3本の『直線』で囲まれた形」です。だから、◎は三角形でないと思います。
 そうか。線と直線は違うんだ！だから◎は三角形でないのか。
 今日、線と直線の違いが分かったのは、〇〇くんの「◎は、三角形と思う。」という発言と、〇〇さんの「線は曲がっていてよいの？」という発言のおかげですね。みんなで話し合ったから、〇〇さんの考えからこんな発見につながったんですね。

子ども同士が発見して獲得した知識・技能は、確実に定着し、他の場面にも応用できると言われています。また、思考力・判断力・表現力等をもつながります。教師が子どもの発言等を意図的に価値付け、話し合う活動のよさを、子どもが実感できるようにしましょう。



Q2. 「思考を広げ、深める」とはどういうことですか？

A2. 「話し合う活動」を通して、話し合う前にもっていた知識、技能、思考等が、より本時の学習のねらいに近づくことです。



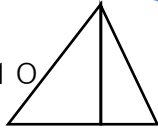
【小5 算数科「面積」】

めあて 三角形の面積の求め方を考え、公式をつくろう。

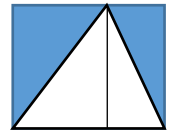


底辺 5 cm、高さ 4 cm の三角形の面積の求め方から、三角形の面積を求める公式は、どんな公式になるかを話し合ひましょう。

二つの直角三角形に分けて、 $3 \times 4 \div 2 + 2 \times 4 \div 2 = 10$ 面積は求められるけど、公式にできなくて困っているよ。



長方形の半分とみて $4 \times 5 \div 2 = 10$ だから 「縦×横÷2」です。



計算のきまりを使って、 $3 \times 4 \div 2 + 2 \times 4 \div 2 = (3+2) \times 4 \div 2 = 5 \times 4 \div 2$ で、「底辺×高さ÷2」になるよ。

意見の対立

長方形では縦と横だけど、三角形では高さと底辺になるから、「高さ×底辺÷2」になると思うよ。

どちらも納得できる考えですね。公式はどちらなのか、教科書で調べてみましょう。

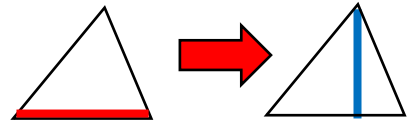


教科書には、三角形の面積の公式が「底辺×高さ÷2」と書いてありました。みんなの考えと、どう結び付きますか。

教科書に、三角形 ABC の辺 BC を底辺とすると、頂点 A から底辺 BC に垂直にひいた直線の長さを高さという。」とあるよ。

高さって、底辺が先に決まってから決まるからじゃないかな。

そうか。「縦×横÷2」と思っていたけど、三角形の面積の公式は、「底辺×高さ÷2」になるんだね。



公式にできなくて困っていたけど、図で考えた〇〇さんの意見で、三角形の面積を求める公式の意味がよく分かったよ。

「話し合う活動」を行うことで、予想したことの根拠が明確になったり、新たな知識や技能を獲得したり、既習事項と結び付けて考えたりすることが出来ます。

話し合う活動で教師が「視点」を与えたり、「振り返り」で自分が何を学んだのか、友達のどの発言が自分にとって新たな発見であったかを表現させたりすることは、自己の考えの広がりや深まりを自覚することにつながります。

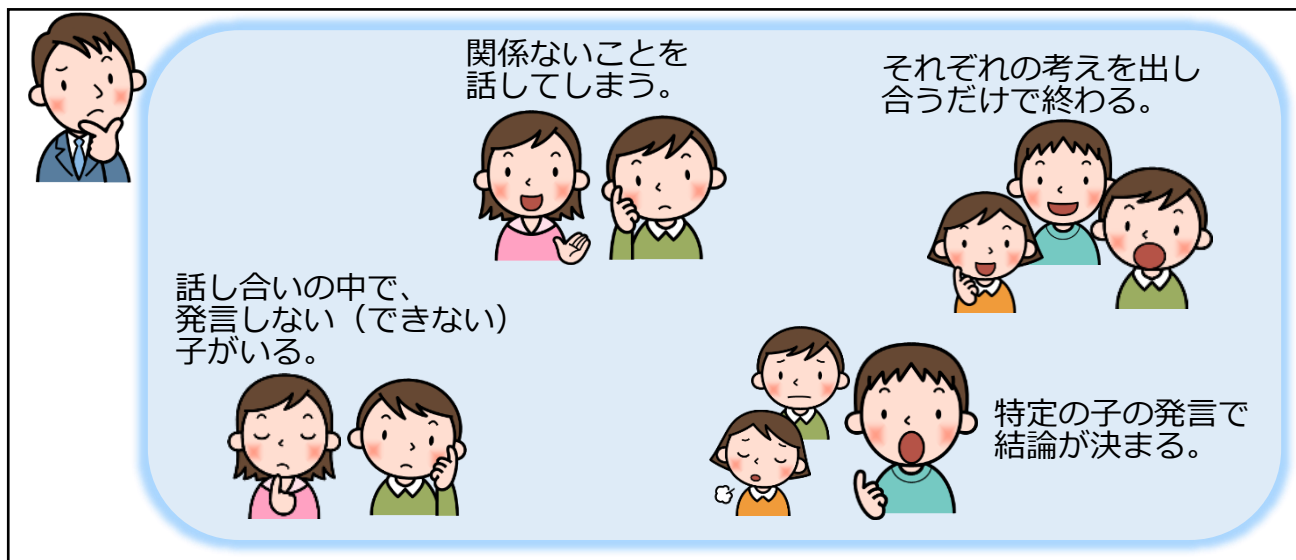


Q3. 「話し合う活動」でのポイントは何ですか？

A3. 何を話すかといった「内容」、どのように話し合うかといった「方法」がポイントです。



◆ こんなこと、ありませんか…



「話し合う活動」の指導のポイント

【内容】 [Q5へ](#)

- ① 本時のねらいの達成につながるものに焦点化された内容
- ② 一人一人の考えにずれや対立が生まれる内容
- ③ 根拠が示せる内容
- ④ 子どもが解決したいと思う内容

【方法】 [Q6へ](#)

- ① 個で考えをもつ場面を設けること
- ② 思考を促す工夫をすること
- ③ 個で考えを再構成する場面を設けること

このような「話し合う活動」の指導のポイントを基に、授業の中で学びを広げ、深めていくことが大切です。「話し合う活動」の計画の仕方や、ポイントの具体については、次のページ以降に紹介しています。



Q 4. 「話し合う活動」をどのように計画すればよいですか？

- A 4. ① 本時のねらい（評価規準）を確認し、「何を」話し合うか考える。
 ② 人数や形態、思考ツール等、「どのように」話し合うか考える。
 ③ 1 単位時間の「どこに」話し合う活動を位置付けるか考える。
 ④ 話し合う前の状態からゴールまでをイメージし、考えの根拠や
 つまずきを想定し、手立て（教師の出番）を考える。



「授業構想シート」を基に、「話し合う活動」構想シートを作成することで本時のねらいを意識した「話し合う活動」を具体的に構想できます。

授業づくりのポイント ～「まとめ」から授業を設計しよう～

授業構想シート（学校 年 ）【単元名】「 」(時間/全 時間)

■本単元のねらい

<本時のねらい> ※ めざす子どもの姿
○

【まとめ】 ※ <ねらい>を子どもの言葉で

【めあて】 ※ まとめとの整合性 子どもの言葉で

【めあて】を生み出す働きかけ

【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的で深い学び

○ 【発問・手だて】

○ 【支援を要する子どもへの発問・手だて】

○ 【発問・手だて】

【振り返り】

【板書計画】

「話し合う活動」構想シート

【何を話し合うか】

① 「何を」話し合うか Q 5 へ

【どのように話し合うか】

分	人数・形態 思考ツール等	予想される子どもの反応	根拠となる資料等 つまずき等への教師の手だて
			<input type="checkbox"/> 一人一人が考えをもつ場面
			<input type="checkbox"/> 思考やその根拠を可視化して示す場面（視点の明確化）
			<input type="checkbox"/> 個人で考えを再構成する場面

② 「どのように」話し合うか Q 6 へ

③ 「どこで」話し合うか Q 7 へ

④ 「教師」は何をするか Q 8 へ

本時のねらいの達成に向けて、子どもの思考を促すには、
 発問・指示・板書・事象提示などを工夫し、思考を焦点化したり
 可視化したりすることが有効です。



Q5. 「話し合う活動」で子どもの思考を広げ、深めるために、
どんな「内容」を話し合えばよいですか？

- A5. ① 本時のねらいの達成につながるものに焦点化された内容
 ② 一人一人の考えにずれや対立が生まれる内容
 ③ 根拠が示せる内容
 ④ 子どもが解決したいと思う内容 を話し合しましょう。



① 「本時のねらいの達成につながるものに焦点化された内容」

◆ こんなこと、ありませんか…

【小6 家庭科「いためてつくろう 朝食のおかず」】

調理実習で朝食のおかずを作ります。調理実習の進め方を話し合しましょう。

献立を決めようよ。私はヨーグルトが好きだな。

コーンフレークもいいかも。

みんな、それぞれ好きなものをつくったらいいよね。どうかな。

それ、いいね。そうしよう。

この単元の調理実習で気付かせたいことは、「野菜を炒めるときは、強火にして短時間でいためる方がよいこと」などです。調理実習の献立を考えるという話し合いになっており、本時のねらいから外れています。



◇ 例えば、このようにしてみると…

調理実習で朝食のおかずを作ります。今回は、キャベツとほうれん草、にんじんを使って野菜炒めを作ります。炒める順序や火加減はどのようにしますか。

固いものから先に入れよう。にんじん→キャベツ→ほうれん草の順かな。

火加減はどうするの？ 強火？弱火？どちらがよいのかな。

強火だと、中まで火が通らないかもしれないよ。

弱火だと、時間がかかるよね。にんじんをうすく切ったらどう？

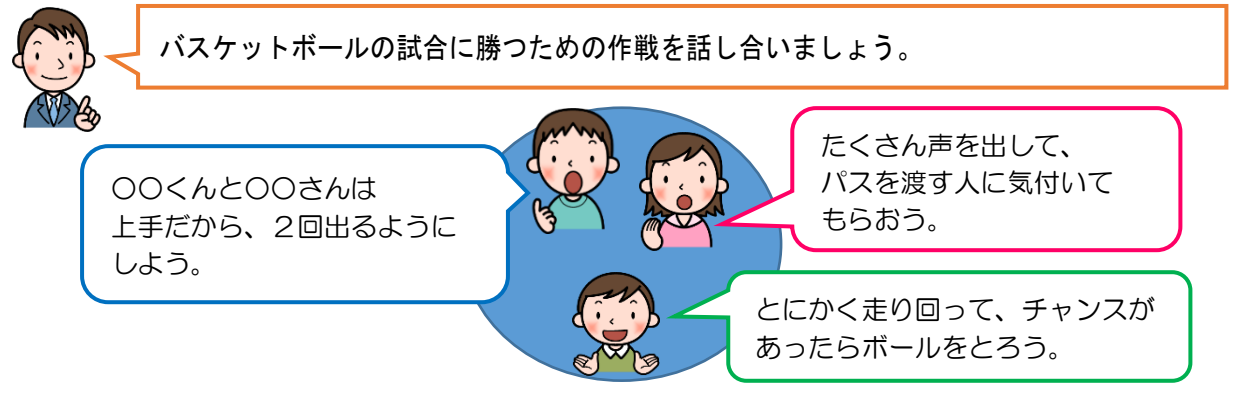
そうか。うすく切れば、強火でも中まで火が通るかも。

にんじんをうすく切るのに賛成。同じ厚さのにんじんを、弱火と強火でいためたときの様子を観察しよう。

にんじんを薄くして、火を通しやすくする工夫がよいですね。また、にんじんだけに絞って、いためたときの様子を観察しようと計画したところもよいですね。

本時のねらいを意識して教師が指導し、何を話し合うのか視点を示して「焦点化」したり、ねらいに沿った子どもの発言を「称賛」したりしましょう。それにより、話し合う活動が本時のねらいに沿ったものとなり、知識・技能の確実な定着や、思考力等の育成につながります。





バスケットボールの試合に勝つための作戦を話し合しましょう。

〇〇くんと〇〇さんは上手だから、2回出るようにしましょう。

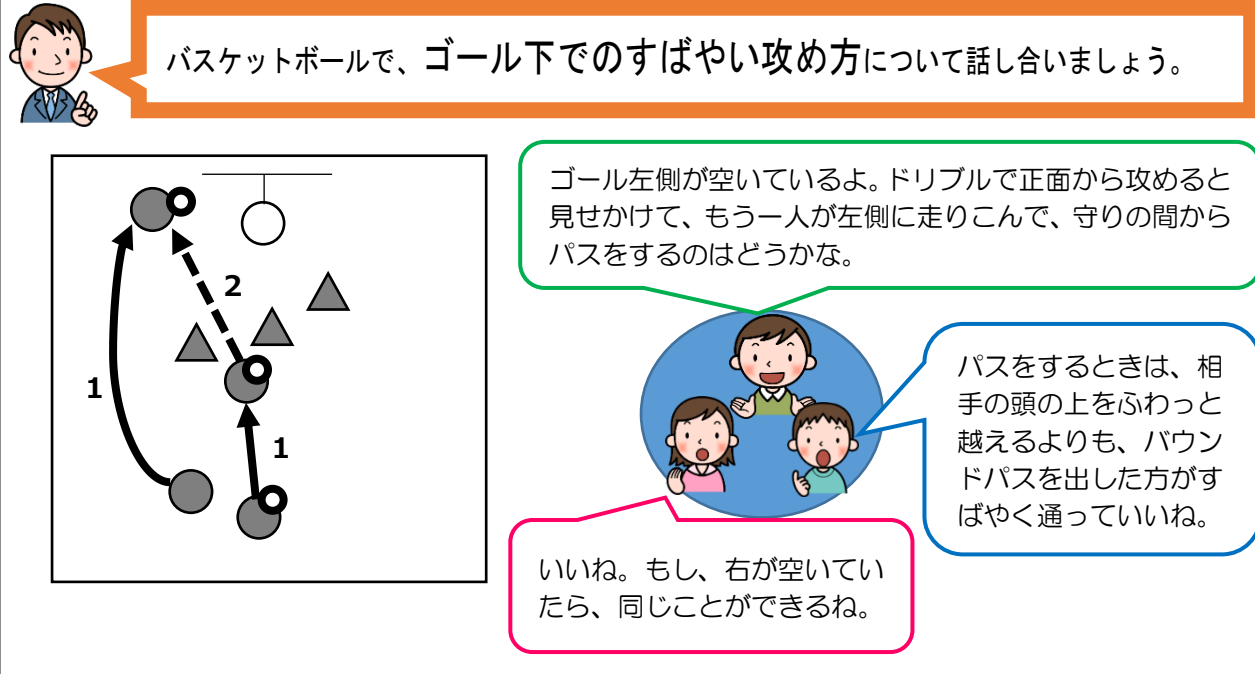
たくさん声を出して、パスを渡す人に気付いてもらおう。

とにかく走り回って、チャンスがあったらボールをとろう。

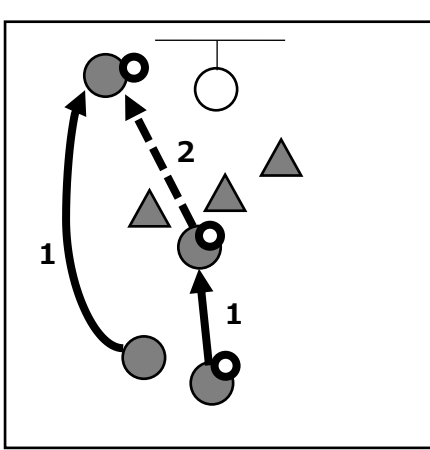
抽象的な内容を話し合わせると、活発に話し合っているように見えても、論点がかみ合わず、ただ発表するだけで終わってしまうことがあります。「話し合う活動」を行う際に、視点を示し、より具体的な内容を話し合わせることで、思考を広げ、深めることにつながります。



◇ 例えば、このようにしてみると…



バスケットボールで、ゴール下でのすばやい攻め方について話し合しましょう。



ゴール左側が空いているよ。ドリブルで正面から攻めると見せかけて、もう一人が左側に走りこんで、守りの間からパスをするのはどうかな。

パスをするときは、相手の頭の上をふわっと越えるよりも、バウンドパスを出した方がすばやく通っていいね。

いいね。もし、右が空いたら、同じことができるね。

本時のねらいの達成を意識して、話し合う内容を焦点化すると、焦点化しなかったときに比べて短い時間で結論や方向性を導き出すことができます。また、ホワイトボードや付箋等を使って、考えを可視化することで、考えを整理したり、共有したりしやすくなります。



② 「一人一人の考えにずれや対立が生まれる内容」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小6 社会科「近代国家へのあゆみ」】



江戸時代の終わりに、黒船に乗って日本に来た人物は誰ですか。話し合しましょう。

ペリー。

ペリー。

ペリー。

ペリー。

全員が同じ考えになるような内容を話し合わせると、広がりや深まりがみられません。考えにずれや対立が生まれるように、「つまずきやすい内容」や「答えが一つに限定されない内容」をとりあげたり、「開いた発問」をしたりするように心がけましょう。



◇ 例えば、このようにしてみると…



江戸時代の終わりに、黒船が日本に来たことで、日本はどんな影響を受けたのですか。

日本が、黒船の大きさから、外国の技術力の高さを知って、もっと外国の技術を取り入れることが必要と感じるようになったのでは。

でも、言葉は通じないし、文化も違うし、新しい文化を受け入れることに抵抗はなかったのかな。

鎖国をやめて、もっと外国と交流しようとする人もいたのでは？

意見の対立

日本を外国から守るために、鎖国を続けようとしたのではないかな。

発問の結果、「答えが同じになった場合」でも、「なぜ、みんなが同じように答えたのか。」「どのように考えてその結論に至ったのか。」などを話し合うことで、考えにずれや違いが生まれることがあります。



③ 「根拠が示せる内容」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小4 国語科「ごんぎつね」】

めあて ごんはどんなきつねなのか、話し合おう。



ごんは、どんなきつねか話し合ってみましょう。

いじわるなきつねと思います。



子どものきつねと思います。

きっと、近くの森が人間の家や畑になって住むところに困っていると思います。

たぶん、きつねだから油揚げが好きなのかな。

物語の内容と関係のない意見ばかり出て、読みが深まらないな。



話し合うときには、「根拠」を示すことで、「客観性」が増し、より多くの相手を納得させることができます。「思いつき」「主観が中心」となり、「話し合う活動」に深まりがみられないっている場合は、その「根拠」を尋ねてみましょう。



◇ 例えば、このようにしてみると…

めあて ごんはどんなきつねなのか、話し合おう。



ごんは、どんなきつねか話し合ってみましょう。

いじわるなきつねと思います。



子どものきつねと思います。



ごんが、何歳ぐらいなのか、わかる表現はありませんか。話し合ってみましょう。

「小ぎつね」と書いてあります。



「子」ぎつねとは書いていません。「わし」といっているから、大人の小さなきつねではないですか。

「ひとりぼっち」の小ぎつねと書いています。もしかしたら、さびしくて、人にかまってほしくて、わざといたずらをしていたのかもしれない。どうしてかということ、ぼくもかまってほしいとき、いたずらしちゃうときもあるから。

各教科等の「話し合う活動」で、根拠を基に話し合うことが大切です。国語科は「言葉・文・文章」、社会科は「観察や資料」、算数科は「定義や性質」、理科は「観察・実験」というように、教科等の特質に応じて根拠を見だし、具体的に考えるようにしましょう。また、自分の意見を述べるときには、結論を先に述べ、「なぜなら、…だからです。」と、理由を明確にしましょう。



④ 「子どもが解決したいと思う内容」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小3 算数科「たし算とひき算の筆算」】



くり下がりのあるひき算の筆算の仕方について、話し合しましょう。

筆算の仕方なんて、みんな知っているし、今さら話し合うことは何もないよね。



子どもが話し合いたいという思いをもつことができていないと、「話し合う活動」で子どもの思考を広げ、深めることはできません。



◇ 例えば、このようにしてみると…



先生が計算してみました。
もちろん、正解ですよ。

$$\begin{array}{r} 324 \\ -182 \\ \hline 242 \end{array}$$

違うと思います。



どこが違うのか、よく分からないなあ。
間違っているところがどこか、話し合ってみましょう。

百の位の計算が違います。十の位がひけないから、百の位から1くり下げているので、3を2にします。



数え棒を使うともっと分かりやすいよ。百の束を、十の束10個にしたら…。

子どもの認識とのずれを生むものを提示して解決意欲を高めたり、目的意識を明確にしたりするなどして、テーマへの関心や解決意欲を高めましょう。



Q6. 「話し合う活動」で子どもの思考を広げ、深めるために、
どのような「方法」で行うのが有効ですか？

- A6. ① 個で考えをもつ場面を設けること
② 思考を促す工夫をすること
③ 個で考えを再構成する場面を設けること が有効です。



① 「個で考えをもつ場面を設けること」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「わたしたちの暮らしと国土」】

沖縄県と北九州市の暮らしの違いを話し合しましょう。

急に言われても、
行ったことがないから、
全然知らないよ。

えっと、えっと…。
考えがまとまらないな…。

「話し合う活動」を行う前に、一人一人が自分の考えをもつ場面を設けることが大切です。その際、考えたことをノートなどに書いておくと、思考を整理したり、話し合った後に振り返ったりする際に役立ちます。



◇ 例えば、このようにしてみると…

沖縄県と北九州市の暮らしの違いについて、知っていることや、教科書や資料を使って、ノートに書いてみましょう。その後、話し合います。

教科書の○ページの写真を見ると、
沖縄の家には、屋上に丸いものが
乗っていることが分かったよ。
これは、何だろう。調べてみたいな。

4月に海びらきがあっているよ。
北九州市より、暖かいのではない
かな。

「話し合う活動」を行う前に、まずは「自分で考える時間」を設定しましょう。
その際、考えを聞き取ったり、補助資料を示したりして、支援することが大切です。



② 「思考を促す工夫をすること」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「わたしたちのくらしと国土」】

沖縄県の気候や人々のくらしの様子について、調べて分かったことを話し合いました。

夏に台風が多く来ることが、教科書〇ページの資料から分かります。風が強いので、家の周りに風よけの壁や、防風林を植えています。島だから、川が短く、たくさん雨が降ってもすぐに海に流れてしまうので……

たくさん情報があって、何を話したか分からないよ。

何だか、発言しにくいな。

「情報が多すぎて整理しきれず、結局何を話し合ったのかがよく分からない。」ということがあります。このようなときは、例えば、ホワイトボードや付箋などを使って、考えたことや話し合ったことを可視化する、といった手だてを工夫することで、思考を整理したり、関係付けたりすることができます。

◇ 例えば、このようにしてみると…

沖縄県の気候や人々のくらしの様子について、調べて分かったことを付箋に書きましょう。書いた後は、同じ種類の付箋をまとめて、タイトルをつけましょう。

沖縄県の気候や人々のくらしの様子について

- 家のつくり
- 台風の接近回数
- 気温や降水量

この付箋とこの付箋は、家のつくりについて同じことが書いてあるね。合わせてみると、家のつくりの特徴があると分かるね。

夏に台風が多く来ることが、教科書〇ページの資料から分かります。だから、教科書〇ページの資料のように、家の周りに風よけのための壁や防風林を作っているんだね。

降水量が多いのに、どうして多くの家の屋根の上に「貯水タンク」があるのかな。

島だから、川が短く、たくさん雨が降ってもすぐに海に流れてしまうので、教科書〇ページの資料のように、家の屋根には貯水タンクをつけて、水をためるようにしています。

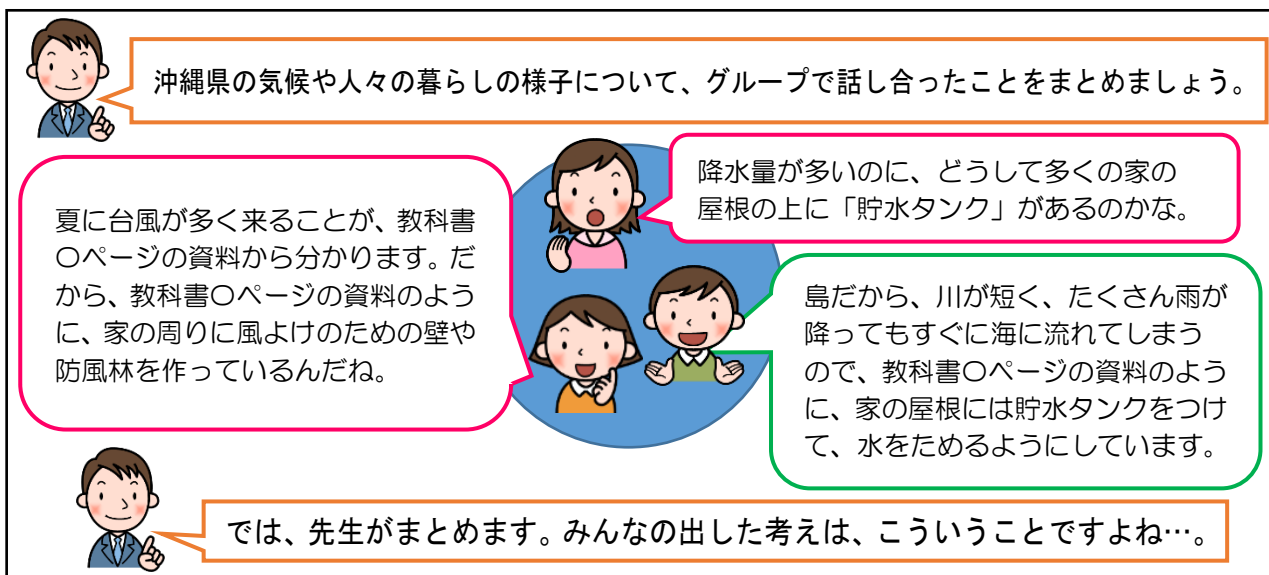
付箋などを使うとみんなの意見が生かされるし、話し合った結果が一目で分かっていいね。

「一部の発言力のある子どもが一方向的に話をして終わってしまう。」ような場合には、付箋やホワイトボードを使うことで、全員の考えを「話し合う活動」に生かすことができます。「話し合う活動」のねらいに合った思考ツールを使うことも有効です。

③ 「個で考えを再構成する場面を設けること」について

◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「わたしたちのくらしと国土」】



沖縄県の気候や人々の暮らしの様子について、グループで話し合ったことをまとめましょう。

夏に台風が多く来ることが、教科書〇ページの資料から分かります。だから、教科書〇ページの資料のように、家の周りに風よけのための壁や防風林を作っているんだね。

降水量が多いのに、どうして多くの家の屋根の上に「貯水タンク」があるのかな。

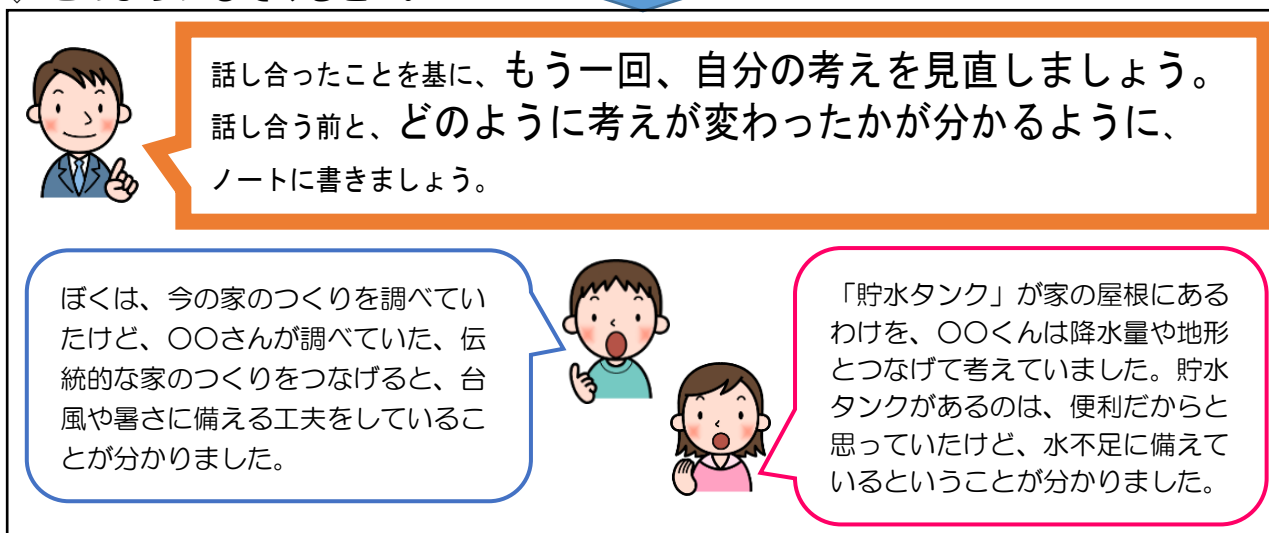
島だから、川が短く、たくさん雨が降ってもすぐに海に流れてしまうので、教科書〇ページの資料のように、家の屋根には貯水タンクをつけて、水をためるようにしています。

では、先生がまとめます。みんなの出した考えは、こういうことですね…。

話し合った後に、教師が「つまり…」とまとめてしまうと、子ども自身が考えが広げ、深めたかどうかを自覚することが難しくなります。授業の前に自分がもっていた考えに、「話し合う活動」で出された友達の考えを関係付けて、考えを「再構成」する場を設けましょう。



◇ このようにしてみると…。



話し合ったことを基に、もう一回、自分の考えを見直しましょう。話し合う前と、どのように考えが変わったかが分かるように、ノートに書きましょう。

ぼくは、今の家のつくりを調べていたけど、〇〇さんが調べていた、伝統的な家のつくりをつなげると、台風や暑さに備える工夫をしていることが分かりました。

「貯水タンク」が家の屋根にあるわけを、〇〇くんは降水量や地形とつなげて考えていました。貯水タンクがあるのは、便利だからと思っていたけど、水不足に備えているということが分かりました。

ノートを見て、「話し合う活動」の前と後における考えの変容が分かるようにしましょう。「話し合う前」に書いた部分に、「話し合った後」に新たに知ったことを「吹き出しでつけ加え」たり、「考えが変わった部分は消しゴムを使わずに二本線で消して書き直し」たりすると、自己の考えの変容を自覚しやすくなります。



話し合う活動を終えて、自分の考えを再構成することで、考えの変容が見られたところが明らかとなり、それが本時の「まとめ」や「振り返り」につながります。



Q7. 1単位時間のどこに「話し合う活動」を位置付けたらよいですか。

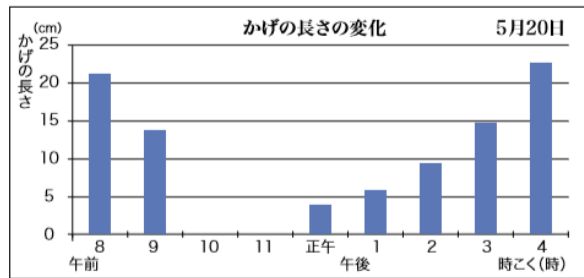
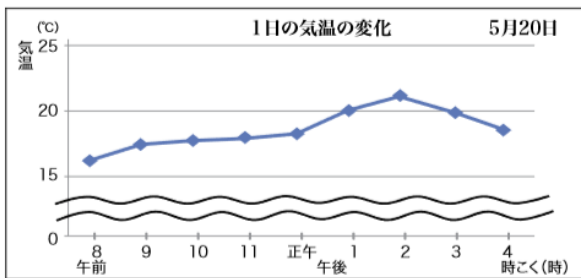
A7. 授業の様々な場面で「話し合う活動」を位置付けることができます。本時のねらいに迫るために効果的に取り入れましょう。

① 小学校理科 予想する場面での「話し合う活動」例

実験や観察は楽しそうにするが、考察の場面で話し合いが深まらないな…。



◇ 予想する場面で、話し合う活動を位置付けてみましょう。【小5 理科「天気と情報(1)」】



【予想】

5月20日はどのような天気だったのか、予想したことを話し合いましょう。



気温のグラフが、正午から山型になっているから、晴れていたはずだね。

気温のグラフが平らな午前中は曇りか雨と思うよ。

意見の対立

そうかな。影のグラフを見ると、午前8時と9時は影があったことが分かるよ。影があるということは、晴れていたはずだよ。

【検証計画】

影があった時間帯は晴れていて山型になり、影がなかった時間帯は曇っていて平らなグラフになるか調べてみよう。



【観察・実験】 【結果の共有】 を実施。

【考察】

午前8時から10時までは晴れていたから、気温が上がり、午前10時から正午前までは曇っていたから、気温はあまり変わらない。正午からまた晴れたから、気温が上がって山型になるんだね。



<参考：理科の問題解決の過程>



予想する場面で「話し合う活動」を設定することで、生活経験や既習内容とつなげた「根拠のある見通し」を、実験前にもたせることができます。ここでの見通しが、観察・実験や考察の場面での考えの広がりや深まりにつながります。



② 小学校体育科 動きを高める場面での「話し合う活動」例

◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 体育科「マット運動」】

開脚前転を試してみて、動きをよりよくする方法をアドバイスしましょう。

ぼくの開脚前転、どうだった？

上手に回れたね。すごい。

動きが速いし、どこを見たらよいか、よく分からないから、アドバイスをするのが難しいな。

「話し合う活動」を行う際には、視点を絞り、根拠を示して話し合うようにしましょう。例えば、この場合、「膝が伸びているか」「勢いよく踏み切っているか」など、動きを見るときに視点を絞り、実際の動きを根拠に確かめることが大切です。



◇ 例えば、このようにしてみると…

開脚前転を試してみて、動きをよりよくする方法を、「膝が伸びているか。」「勢いよく踏み切っているか。」というポイントでアドバイスしましょう。

(試技後) 膝は、伸びていたように感じたけど、どうだった？

ひざが少しだけ曲がっていたよ。

途中までは伸びていたよ。どこまで伸びていたか教えるから、もう一回やってみて。

膝を伸ばしていたと感じていたけど、教えてもらって、確かに膝が曲がっていたと分かったよ。

もっとスピードがあると、勢いがついてひざが伸びやすいよ。「ドン」と音が出るくらい、勢いよく踏み切ってみたらどうかな。

そうか。スピードをあげてもう一度やってみるから、膝が伸びるか見ていてね。

動きや音声などについては、映像や録音データを活用して可視化する方法もあります。大切なことは、「考えたことが相手に分かりやすく伝わるように、必要に応じてツール等を活用させること」「話し合った結果、自分がどう変わったかを自覚できるように、振り返る場を設けること」です。



Q8. 「話し合う活動」をしているときに、教師がすることは何ですか。

A8. 「ねらい」につながるキーワードを意識して聞き取り、実態を把握して、「価値付け」や「つまずきへの支援」を行いましょ。



◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「水産業のさかんな地域」】

水産業に携わる人々の願いについて、調べたことを基に話し合しましょう。

漁獲量が年々減っているから、増やしたいと思っているのでは。

魚が少なくなっているから育てることに力を入れたいと思っているのでは。

後継者がいないので、後を継ぐ人が欲しいと思っているのでは。

燃料費が高いので、近くの海で漁業をしたいのでは。

活発に意見が出されているけど、教師が何をしたらよいか、よく分からないな。

話し合う活動で、何を新たに学ぶかという「ねらい」、何が考えの「根拠」か、「つまずき」やすいところはどこか、を意識して聞きましょう。まとめにつながるキーワードを発言した子どもを把握し、その場や全体での交流で取り上げ、価値付けることは、思考を広げ、深める上で有効です。



◇ このようにしてみましょう

水産業に携わる人々の願いについて、調べたことを基に話し合しましょう。

「漁獲量」「後継者」「費用」「育てる漁業」に関する言葉を意識して聞き取るぞ。

漁獲量が年々減っているから、増やしたいと思っているのでは。

魚が少なくなっているから育てる漁業にも力を入れたいと思っているのでは。

後継者がいないので、後を継ぐ人が欲しいと思っているのでは。

燃料費が高いので、もっと近くの海で漁業をしたいのでは。

漁獲量が年々減っているのは後継者が足りないことや、魚を取りすぎて少なくなっていることが原因かな。

燃料費が高くても、近くの海に魚が少なかったら遠くまで行くしかないね。育てる漁業に力をいれようとする気持ちも分かるな。

漁獲量が減ったわけを、後継者不足や、魚の量が減っていることに結び付けているところがすばらしいですね。

魚の量が減る中、高い燃料費を払って遠くの海まで行くよりも、育てる漁業に変えようとしたことに気付いたことが素晴らしいですね。

「話し合う活動」をしているときに、「ホワイトボード」や「ノート」などに書かれた内容を、「キーワード」に着目して見取ることで、子どもの考えや実態を把握することができます。「話し合う活動」の前に、子どもに、考えを「ホワイトボード」等に「キーワード」で書かせることで、子どもも伝えたいことの内容を意識でき、教師も考えを見取りやすくなります。



Q9. 「話し合う活動」の基盤づくりに、日々、取り組めることはありますか？

A9. 日常的に「話し合う活動」を取り入れ、そのよさや価値を実感させましょう。



◆ こんなこと、ありませんか…

友達の話をよく聞いて、話し合しましょう。

聞くことが苦手な子が多くなかなか話し合いにならない。

特定の子の発言で結論が決まる。

◇ このようにしてみましょう。

話し合いの価値を実感させましょう。



今日の話し合う活動を振り返って、よかったことは何ですか。

〇〇さんの意見を聞いて、なるほどと思いました。それぞれの考えのよい点をあわせると、新しい考えができました。



反応豊かな子どもを育てましょう。

なるほど。
いいね。



すごいね。
やってみたい。



うなずきやつぶやきがあると、話し手が話しやすくなりますね。

子どもに人前で話す自信をもたせましょう。

健康観察で



自分の身体や調子と一緒に、考えたことを友達に伝えましょう。

はい。昨日まで少しのどが痛かったけど、今日は、ずいぶん痛みがとれたのでほっとしています。



朝の会で



気になったことをたずねてみましょう。

昨日、公園に行ったら、かわいい犬がいました。



それは、どんな犬ですか。

話し合う活動のあとに振り返りを行い、自分の考えが広がり、深まったという経験を繰り返すことで、「話し合う活動」のよさを実感することができます。その中で、自分の考えたことが相手に伝わった喜びを味わえるように、発表者や聞き手に対して、日頃から話し方、聞き方についてくり返し指導しましょう。





「話し合う活動」の形態について

バズ・セッション

グループでリーダーや書記を決めて話し合う活動を行い、グループごとの結論を全体の場で報告します。

ラベルトーク

グループで話し合う活動を行い、内容を絵・図・短い言葉（ラベル）にまとめ、全体の場で報告します。

ロールプレイ

課題に応じた場面を設定し、役割（話し手・聞き手・観察者）を分担して演技し、様々な立場の考えを理解できるようにします。

ジグソー学習

小グループをつくり、課題を分担します。グループで課題を解決し、解決策を分担して聞きに行き、もとのグループのメンバーに伝えます。

KJ法

課題に対する自分の考えを付箋等を書きだし、同じ種類の付箋をまとめていく方法です。

ディベート

あるテーマに対して肯定側・否定側に分かれ、資料を用いて話し合う活動を行います。主張の論理性・実証性を聞き役が評価します。

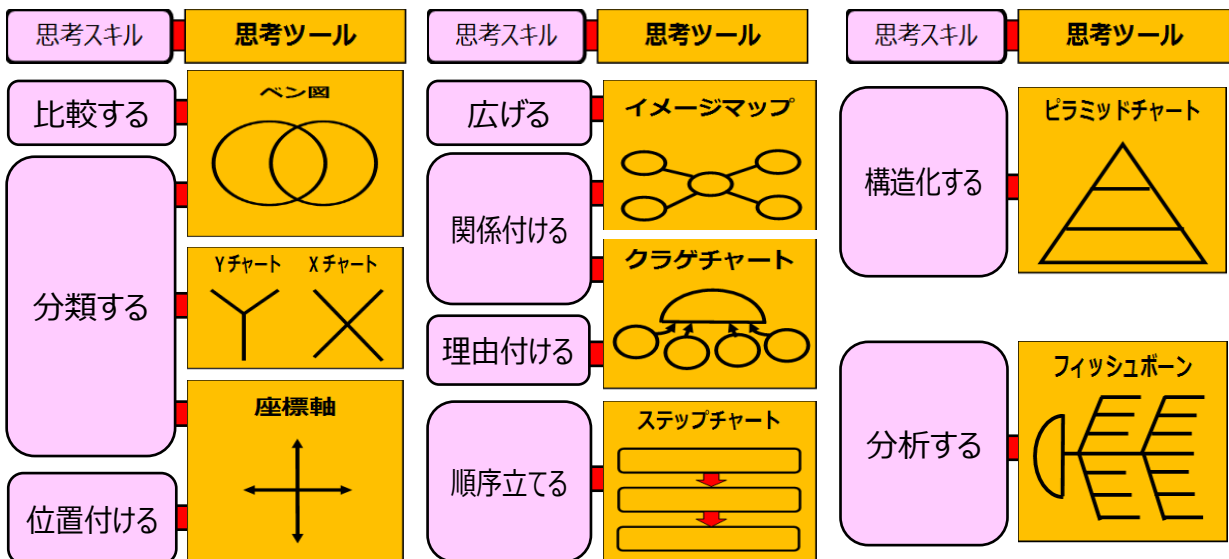
パネルディスカッション

あるテーマに対して、特別に詳しい知識や意見を持っている人がパネラー（意見を述べる人）となり、コーディネーター（司会）の進行に従い、意見発表やメンバー間の討議を行い、聞いている人との意見交換を行う方法です。

目的や、発達段階を考慮して形態を選びましょう。日頃からこれらの形態での話し合う活動を経験しておくことが大切です。その際、「話し手」はテーマに沿って分かりやすく考えを伝え、「聞き手」はメモ等を活用して、意見の相違点・類似点を整理しながら聞くことが大切です。



「思考スキル」と「思考ツール」について



比較や関連付けなどの「思考スキル」を身に付けることが大切です。その際に「思考ツール」を活用すると、考えが「見える」ようになり、考えを整理したり、分かりやすく説明したりすることができるようになります。



各教科等の「話し合う活動」の基盤となる 国語科における「話し合う活動」の内容について

◇ 各学年で学習する、国語科の「話し合うこと」に関する指導事項

【平成29年度版 学習指導要領解説 国語科より】

	話すこと・聞くこと（オ）	ポイント
小 低学年	互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	<p>☞ <u>系統的に話し合いの経験を</u> 1年生のはじめは、2～3人の少人数で話し合うことから始めましょう。2年生の終わりには、3～4人の話し合いで自分たちの考えをまとめることができるようにします。</p> <p>☞ <u>話し合いのイメージを</u> さまざまな話し合いと通して「何かを決める話し合い」や「考えを出し合う話し合い」など、子どもに話し合いのイメージをもたせましょう。</p> <p>☞ <u>質問の指導を</u> 「確認する質問」 「疑問点を尋ねる質問」 「自分の意見を述べて、相手の意見を尋ねる質問」 など質問の指導をしましょう。</p>
小 中学年	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	
小 高学年	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。	
中 第一学年	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	
中 第二学年	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	
中 第三学年	進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。	

司会を立てた「話し合う活動」は、小学校3年生の国語科の学習に位置付けられています。小学校3年生以上で、司会者を位置付けた「話し合う活動」を日常的に行うことも大切です。



話し合いを深める手法「ファシリテーション」について

◇ 「ファシリテーション」を授業に取り入れるには ～新潟市立白新中学校の取組の紹介～

■ 授業の基本プロセスの確認

- ① 「個」：個人で考える
- ② 「拡散」：意見を出し合う。相手の意見を否定しない。
- ③ 「構造化」：次に活用するために意見を整理する。
- ④ 「個」：出された意見を基に個人の考えを再構成する。

■ 留意点

- 1グループ3～4人が基本。
- 「ファシリテーター」：班員の発言を促し議論を進行する。
- 「ライター」：出た意見をホワイトボード等にまとめる。思考ツールを活用する。
- 「拡散」「構造化」の段階で論点を明確にするために議論を可視化する。

国語科の「話すこと・聞くこと」の学習と結んで進め方を身に付けさせましょう。「目的を意識すること」「意見の同じところや違いを明らかにすること」「考えを可視化し、整理する方法」などについては、指導しましょう。このことは「ファシリテーション」だけでなく、どの「話し合う活動」の手法でも大切です。



授業構想シート (学校 年) 【単元名】「 」 (時間 / 全 時間)

■本単元のねらい

<本時のねらい> ※ めざす子どもの姿
○

【まとめ】 ※ <ねらい>を子どもの言葉で

【めあて】 ※ まとめとの整合性 子どもの言葉で

【めあて】を生み出す働きかけ

【追究する活動や働きかけ】 主体的・対話的で深い学び

-
-
-

【発問・手だて】

【支援を要する子どもへの発問・手だて】

【発問・手だて】

【振り返り】

板書計画

「話し合う活動」構想シート

【何を話し合うか】

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 本時のねらいの達成につながる内容 | <input type="checkbox"/> 子どもが解決したいと思う内容 |
| <input type="checkbox"/> 一人一人の考えにずれや対立が生まれる内容 | <input type="checkbox"/> 根拠が示せる内容 |

【どのように話し合うか】

分	人数・形態 思考ツール等	予想される子どもの反応	根拠となる資料等 つまづき等への教師の手だて
	<input type="checkbox"/> 一人一人が考えをもつ場面		
	<input type="checkbox"/> 「話し合う活動」の場面		
	<input type="checkbox"/> 個人で考えを再構成する場面		

授業構想シート（小学校3年算数科）【单元名】「 重 さ 」（1時間／全8時間）

■本単元のねらい

- ・ ものを持ち上げる活動や、目的に応じて適切に重さの見積もりをしたり計器を選んだりする活動を通して、重さについて理解し、その普遍単位を知り、計器を用いて測定できるようにする。

ステップA①

ステップA②

学習指導要領解説や北九州スタンダードカリキュラム等を参考に設定。

<本時のねらい> ※ めざす子どもの姿

- 基準量の幾つ分の考えを基に、重さの測定の仕方や単位を用いた表し方を考えることができるようにする。

ステップA③

評価規準を基に設定。

ステップA④

<ねらい>と一致した「まとめ」になっているか。

【まとめ】 ※ <ねらい>を子どもの言葉で

重さも、「同じもののいくつ分」で表すと、くらべやすい。

ステップA⑤

「まとめ」に向かう「めあて」になっているか。

【めあて】 ※ まとめとの整合性 子どもの言葉で

天びんを使って、どちらがどれだけ重いかくらべる方法を考えよう。

【めあて】を生み出す働きかけ

- ・ 重さの近い三角定規とペンを提示し、どちらが重いかと発問する。

【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的で深い学び

- 身の回りにある文房具を両手に持ち、「どちら」が重いか、判断する活動をする。
- 三角定規とペンのどちらがどれだけ重いかについて、天秤を使って調べる方法を考える。
- 三角定規に小石を付け加えて、天秤をつり合わせる考えと、たくさんある1円玉の数で重さを比べる考えの違いについて比べる。

ステップB①

問題意識をもたせる活動やまとめにつながる発問か。

【手だて】

- ・ 単元導入数日前から、教室に天秤を置いておき、自由に触れることができるようにしておく。

【支援を要する子どもへの発問・手だて】

- ・ 三角定規とペンの重さを1円玉の数で表すことができるように、三角定規は1円玉何枚でつり合うのか、実際に確かめる活動を設定し、「ペンは1円玉何枚でつり合うかな。」と発問する。

【発問】

- ・ 重さも長さやかさと同様に、「同じもののいくつ分」で表せそうだと気付くことができるように、「どれだけ重いか」と発問する。

【振り返り】

例：どれだけ重いかを調べるときは、小石のように重さが違う物を探すより、1円玉のように同じ物を使って何個あるかを調べた方が簡単だとわかりました。「同じ物のいくつ分」という考えは、長さやかさでも使ったけど、それと同じだと思いました。いろいろな物の重さを量りたいです。

板書計画

ステップB②

1時間の思考の流れやキーワードが分かる板書か。

「話し合う活動」構想シート

【何を話し合うか】

- 本時のねらいの達成につながる内容
- 子どもが解決したいと思う内容
- 一人一人の考えにずれや対立が生まれる内容
- 根拠が示せる内容

ステップC③

1単位時間のどこに「話し合う活動」を位置付けけるかを考える。

三角定規とペンのどちらがどれだけ重いかについて、天秤を使って調べる方法

ステップC①

本時のねらい（評価規準）を確認し、「何」を話し合うか考える。

ステップC②

人数や形態、思考ツール等「どのように」話し合うか考える。

ステップC④

話し合う前の状態からゴールまでをイメージし、つまずきを想定し、手だてを考える。

分	人数・形態 思考ツール等	予想される子どもの反応	根拠となる資料等 つまずき等への教師の手だて
5	<input type="checkbox"/> 一人一人が考えをもつ場面		
	個人	A 軽い方（三角定規）に小石を乗せて つり合わせる考え <u>小石1個分ペンが重い</u> <u>小石3個分ペンが重い</u> など B 三角定規と1円玉、ペンと1円玉をつり合わせ、 それぞれ1円玉の何枚分かを調べる考え <u>1円玉〇枚分ペンが重い。</u>	【根拠】 天秤の操作 【支援】 「どれだけ」の意味や表し方が分からない児童に対して ①三角定規は1円玉何枚でつりあうのか、実際に確かめる活動を設定 ②「ペンは1円玉何枚でつりあうかな。」と発問 ③「1円玉何枚分重かったか。」と発問。
	<input type="checkbox"/> 「話し合う活動」の場面		
15	全体	<u>考えたことを、発表してみましょう。</u> （Aの「小石1つ分重い」となった考えを発表） （B 1円玉で比べた考えを発表）	【支援】 A・Bの発表後 ○どちらも数で表していることを称賛。
20	個人で付箋記入 ↓ 4人グループ ホワイトボード	<u>どちらの方法が多くの人に正しく伝わるか話し合います。</u> <u>付箋に「わけ」を書き、グループで話し合います。</u>	【支援】 意見がまとまらないとき ○結局ペンは、どれだけ重いかを尋ね、小石の結果にばらつきがあることを確認。
30	↓ 全体	<u>小石</u> ・手に入りやすい。 <u>1円玉</u> ・手に入りやすい。 ・全部同じ重さ。 ・結果がみんな同じになる。	
<input type="checkbox"/> 個人で考えを再構成する場面			
38	個人	<u>話し合って分かったことを基に、まとめを書きましょう。</u> まとめ ・重さも、「同じもののいくつ分」で表すと、比べやすい。 振り返り ・同じものを使って何個あるかを調べたほうが簡単。 ・長さやかさでも「同じもののいくつ分」の考えを使った。 ・いろいろな物の重さを測りたい。	

おわりに

「話し合う活動」は、日々の指導の積み重ねが大切なのです。

- ・本時のねらいの達成につながるものに、話し合う内容を焦点化すること。
- ・考えにずれや対立が生まれる内容や、根拠が示せる内容にすること
- ・「個の考え」をもって「話し合う活動」を行い、その後、再び「個で考えを再構成する」ことが大切であること
- ・「話し合う活動」では、思考を促すために、ホワイトボードや付箋等を活用して、可視化や焦点化を図ること
- ・ねらいにつながるキーワードを意識して、「話し合う活動」を支援すること

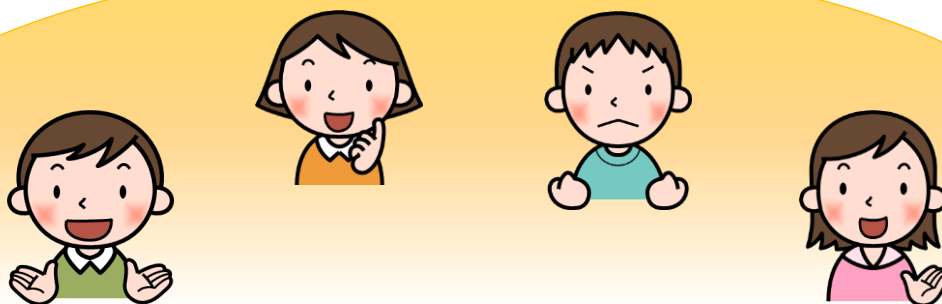


が大切であると分かりました。

大切なことは、話し合う活動の前と後で、子どもの知識や技能・思考力等がどう変わったかということですね。それを把握するために、事前の実態把握や、本時でどんな力を身に付けるかという「ゴール」を明確にすることが大切なのです。また、「振り返り」で本時の学びを自覚することも大切なのです。



今回は、1単位時間の授業を中心に取り上げましたが、授業でじっくり考える場面と、知識・技能等の定着を図る場面では、話し合う活動に使う時間が異なります。単元を見通して、どの時間にじっくりと話し合う活動を取り入れ、評価するのかということについて、計画することが大切です。



平成 30 年 9 月 初版発行

「わかる授業」の基礎・基本マネジメント研修 3

～授業のスタンダード化と「話し合う活動」の質の向上を目指して～

子どもの思考を広げ、深める「話し合う活動」Q & A 集【小学校版】

北九州市教育委員会 学力・体力向上推進室

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町 1 番 1 号

電話：093-582-3445